

二十歳のころ

C班 大久保、高橋、千代田、森川

【インタビューの経緯】

私たちは加藤ゼミのテーマである「人事労務管理」を行なっている企業に焦点を当てて探した。そこで、パーソルキャリア株式会社の取締役執行役員で採用面接を担当している石井様と、人事開発部長の経歴を持ち、現在市長として東大和市をまとめあげる和地様にそれぞれアポイントメントを取り取材をさせていただき運びとなった。また、パーソルキャリア株式会社の「はたらいて、笑おう。」というグループビジョンと、自然豊かな東大和市の魅力も深く知りたいと思った。

【ご紹介】

[パーソルキャリア株式会社取締役執行役員 石井義庸様]

- ・20年前、一流企業から当時はベンチャー企業だった今の会社に転職
- ・「はたらくを楽しむ」と「キャリア選択の自由」が隣り合わせだと感じ、「育成型無期雇用派遣 funtable (ファンタブル)」というサービスを立ち上げた。サービス名の由来は、Fun (楽しむ) × T (テンプレ) × able (可能にする)。

[東大和市長 和地仁美様]

- ・昨年の5月に東大和市の市長に就任し、現在もご活躍中
- ・経歴

武蔵野音楽大学を卒業後、地元群馬県の山間部の小学校に2年間臨時教師として勤める。

スーパーマーケットを経営するベンチャー企業で働き、

最終的に人事開発部長になるなど人事関係の仕事で活躍

その後、「人を活かす」経営を学ぶため、カナダへ留学する。

以前勤めていた会社の社長の誘いで議員を目指す

2011年に東大和市議会議員に初当選。3期勤めた後、2023年に市長に

【会社・市役所概要】

社名：パーソルキャリア株式会社

- ・設立：1989年6月15日
- ・所在地：〒100-6328 東京都千代田区丸の内2-4-1 丸の内ビルディング 27F
- ・事業内容：人材紹介サービス
- ・資本金：1127万円
- ・従業員数：6929名

東大和市役所

・所在地：〒207-8585 東京都東大和市中心3丁目930

・経営方針：未来につながる市政を目指す！！

- 1.誰もが未来への希望が持て、住み続けたいと思えるまちづくり。
- 2.前例踏襲ではなく“民間”、“市民”の当たり前を行政に。
- 3.職員がチャレンジ精神を発揮し、時代に即した政策を立案・実施する体制を強化。市民の役に立ち、市を発展させる市役所に。

・職員数：460名（令和4年4月1日時点）

【インタビューの内容】

[石井様のインタビュー内容]

Q.20歳の頃に一番力をいれていたことは？

結婚式場でのアルバイトに力を入れていた。次第に責任の重い仕事も任されるようになるなど、指示待ちの立場からつくる側へシフトしていったことにやりがいを感じた。

Q.20歳の頃の夢は？

具体的な夢は決まっておらず、人は何のために生きるか、何のために働くか、どんな価値を提供したいかを漠然と考えていた。ただ、自分が何かをしたいというより人に何かをしてあげたいという使命感があり、将来は人に頼られる存在になりたいという漠然とした夢があった。

Q.20歳の頃と今で変化したことは？

20歳の頃は人との出会いを通していろんなことを知るインプットに重きを置いていたが、今ではそこで経験したことを伝えるアウトプットに重きを置くようになった。

Q.失敗や挫折の経験は？

高校時代、部活動で後輩にレギュラーを取られた事や大学受験での失敗。

転職した際の周りの反応。

ただ、諦めるから失敗や挫折になる、諦めなければ失敗にはならないとポジティブに考えているためこれらの経験を失敗だとは捉えていない。

Q.会社に求める人物像は？

自分で何をしたいか考えている人

自分の意思をしっかり持っている人

諦めない気持ちをしっかり持っている人。

Q.働く上で大切にしている事は？

人を大事にしながらか社会に貢献する事。しっかり感謝する事。

Q.モットーは？

「自分らしく生きる」

生きていくうえで、仕事や趣味である一定認められた人が新しい挑戦をするということが自分らしいと考えている。新しくチャレンジをするときにはまず、周りの人に認めてもらえる成果を出したうえで本当に自分のしたいことを発信していく。

Q.今後の目標は？

人から頼られる存在に。楽しく過ごす。

60歳に自分になったときに今まで頼られなかった人が急に頼られるようになるわけではない。今は継続をしながらひとつふたつとステップアップをしていくことを目指している。

Q.私たちに伝えたいことは？

本音を話せる仲間を作る。

これからの人生で悩むときには必ずヒントをくれて手を差し伸べてくれる

[和地市長のインタビュー内容]

Q.20歳の頃に一番力を入れたこと

音楽大学の授業（声楽、ピアノ）

歯医者で歯科助手のアルバイト

一人暮らしの生活

→なんでもやりたいと思い挑戦した結果、視野が広がった。

Q.20歳の頃の経験で今に活かしていること

当時はカーナビが無かったので、留学生の級友を観光地へドライブで案内した。その際の行程やルートなどの情報収集、下準備を行った。

→準備して行うことで、社会生活ではどこへでも行け、何でも実現できることを実感した。

Q.失敗や挫折の経験

大学院に入るための試験での失敗

人間関係において、自分の気持ちと他人の気持ちのズレによって生じる難しさ

→しかし、それを悔やむことはない

Q.民間企業から市長になった理由は？

ベンチャー企業の秘書から上場企業の人材開発部長になった

→40歳手前でトップとの考え方の違いなどで悩む

→元上司から議員の誘いを受ける

→東大和市の市議会議員になる

→意見を言うだけでなくやりたい事を自分で実行する立場になりたいと思い、市長を目指す。

Q.東大和市の魅力は？

伸びしろがあること。いい意味で田舎も残っていて、ベンチャー企業のような市である。

Q.働く上で大切にしている事は？

・どんな仕事にも自分のサインを付けること

→画家が作品にサインをするように、何事にも責任を持ち、任せきりにしない。人に任せた仕事にもきちんと目を通す。

・やろうと思った事はその日中に行うこと

Q.どんな人と働きたいか

・育ちのいい人

→家柄ではなく感謝の気持ちなど、人として基本的なこと、例えば「ありがとう」や「ごめんなさい」が言える人

・自分のやりたいことを本質的にわかっている人

・自分と同じ方向を見ている人

→華やかな世界に行くのではなく、自分で作りたい人

Q.20歳の頃の夢と現在の夢は？

20歳の頃は仕事も家事もこなす母のようになりたいと考えていた。しかし、さまざまな経験をしていくうちに自分にあったものは母とは違うと気づいた。

現在では、自分が得た経験を社会に返すことを目標としている。

Q.今年20歳になる私たちに伝えたいことは？

「自分ですべて決めること」

→自分で決めたという実感があれば、たとえ失敗しても前向きになれる

「全てが自分のためになる」

→今のうちから自分の引き出しを増やす努力をすることが大切である

【最後に】

お二方のインタビューで共通していた点は、自分が得た経験を社会に返そうとしていることである。

また、失敗をした時には、失敗で終わるのではなく失敗を悔やまず諦めないでポジティブに続けることが大切である。そして、失敗を失敗だと思わないメンタリティーの部分も今の私たちに取り入れなければならない要素であると分かった。

さらに、成功している方々は大まかな目標設定をしており、その目標に向けての行動力があることが分かった。

私たちが、このような方々のようになるためには、小さなことから目標を設定して、将来を見据えた行動をしなければならないと改めて感じた。